

Neues in Nara

Nr.50

2015年1月15日



Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daijanji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

“これは会員相互のコミュニケーションツールです。皆様からの情報は編集委員へ”

●行事予定

第8回シュタムティッシュ

日時：2月8日(日)15:30~16:30

場所：大安寺催事棟

会員の松本俊郎様、規子様ご夫妻から「は(歯)なしにならない話」というテーマで話題が提供されます。当日は特別にご夫妻による手作りのお菓子つきです。お気軽にご参加ください(詳細は、同封チラシをご参照願います)。

●行事報告

1. クリスマス会

奈良日独協会恒例のクリスマス会は12月13日、和ダイニング「花小路」にて開催。天理大学の留学生2名を交えて36名の参加を得て談笑の輪が広がるなか、金婚式を迎えられた会員の西尾功・昌子ご夫妻によるバイオリンとピアノの息のあった絶妙な演奏に全員興奮の渦に包まれた。続く平尾英治さんのユーモア溢れるドイツ語から日本語へ同時通訳つきの「琵琶湖周航の歌」に至り、会はいつ終わるとも思えない盛り上がりとなった。フィナーレは全員でドイツと日本の歌を合唱して、楽しい夕べの幕を閉じた。



2. 第7回シュタムティッシュ

11月16日(日)大安寺で開催され、理事の林保之さんから「お雇い外国人医師ベルツ博士の貢献」について話題を提供された。日本の近代化には多くのドイツ人が貢献したが、その中でもベルツ博士は専門の医学分野は言うに及ばず芸術・人類学・教育からスポーツに至る広範囲な分野に多くの足跡を残したことなどが紹介された(左上の写真：ベルツ博士)。

3. ドイツ大使館公邸「秋祭り」

11月24日開催された「秋祭り」に全国の日独協会から若手会員が招待され当会から会員の芹沢友香さんが参加、各地の若手会員と意見の交換と交流を行った。

4. ポスター展「極端な時代における独裁と民主主義」

期間：11月5日(水)~14日(金)

場所：奈良県立図書情報館

当協会・県立図書情報館共催、大阪・神戸ドイツ総領事館後援で開催、3000人近くの入場者で、20世紀ヨーロッパの歴史に対する関心の深さが見られた。

●会員だより

会員の渡辺 清さんから

「カラヤンもタクトの誤り」

カラヤン指揮のベルリンフィルの演奏会は、ベルリン駐在員であった私には、楽しい思い出、恩恵であった。



(来日中のベルリンフィル・メンバーと一右端が渡辺さん)

カラヤンは、晩年腰痛に悩まされ、いつもステージの袖から手摺を伝いながら、よろよろと指揮台上に上ってくる。指揮台にはカラヤン専用の背の高い椅子が準備されており、それに浅く腰を下ろし、万雷の拍手に応じて指揮を始めようとする。流石はマエストロ、この瞬間には背筋を伸ばし帝王の貫禄をみせる。拍手が鳴り止み、カラヤンは右手で胸のポケットに入れてあるタクトを取り出そうとする。ところがポケットにタクトが入っていない。その時カラヤン、一瞬ハットしたが、慌てずにコンサートマスターに目配せをする。コンサートマスターは小走りに楽屋に戻り、カラヤンのタクトを持参しカラヤンに手渡す。聴衆も一瞬、何が起こったのか状況が飲み込めなかったが、やがてあちこちから失笑が起こった。が、すぐに静まり返った。マエストロがタクトを上げたからである。席が割安のポディウムでカラヤンと相対するとこんなハプニングも見聞できた。「カラヤンもタクトの誤り」といふべきか。1989年9月10日、カラヤンの追悼演奏会がジュリーニ指揮でシューベルト、ブルックナーを演奏した。演目の下部に「Von Beifall bitten wir abzusehen」の文字があり、拍手無き素晴らしい演奏であった。



ベルリンフィルのメンバーの中には、家族ぐるみでお付き合いできる方々もおり、彼らの日本での管楽、弦楽5重奏などの演奏会を、企業メセナの一環として催すことのお手伝いなどもすることにもなった。

楽しい思い出といえよう。

(写真：指揮者アバドからサインをもらっ渡辺さんのお嬢さん)